

タイトル	音楽療法における音楽の役割：臨床的・ディシジョンと共に考える
内容	<p>音楽療法において音楽、音、またその構成要素は大事なツールであり、音楽療法士はセッションに先立って、又はセッションの瞬間瞬間にどのように音楽を捉えまた提供するかの決定を常に行なっています。決定方法や判断材料には、クライアントの状況、音楽療法士の理念、実践しているアプローチ、経験値、音楽スキル、など様々な要素が関係してきますが、一番大事なのがそれが「臨床的判断に基づいて行われているか」どうかです。「臨床的判断」＝臨床的・ディシジョンとは何か、音楽療法の日々の臨床においてどのようにこのスキルを身につける事ができるのか、講師の実践を交えながらその方法をご紹介しますと思います。</p>
講師名	細江 弥生
プロフィール	<p>山口県立大学で社会福祉を学び渡米。米国ウェスタンミシガン大学にて音楽療法修士取得。シカゴの芸術療法団体に6年勤務し、教育、医療、精神保健、福祉など様々な現場で音楽療法を行い、インターンシップディレクターや管理職を務める。日本帰国後、リハビリ病院での常勤勤務を経てオンラインをベースとした音楽療法関連事業を提供する合同会社 Music Fits Japan を共同創設。日本音楽療法学会及び米国認定音楽療法士。</p>

